

# 第1回 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 議事録

日 時	令和3年4月27日（火）18:00～20:00
場 所	武蔵野市役所西棟8階811会議室
出席者	【委 員】◎松尾哲矢委員、○石黒えみ委員、秋本清委員、櫻井昭委員、 鈴木健太郎委員、河合雅彦委員、藤田勝敏委員、鏑邦宏委員、 多田てい子委員、前川洋司委員、新野雅史委員、古賀祐輝委員、 田中博徳委員、樋爪泰平委員 ※◎委員長、○副委員長 【事務局】武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課 【事業者】株式会社創建（計画策定支援事業者）
欠席者	0名
傍聴者	0名
次 第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 教育長挨拶 4. 委員自己紹介 5. 事務局紹介 6. 議事 （1）委員長、副委員長選出 （2）策定委員会の運営について （3）策定方針と策定スケジュール （4）武蔵野市の運動・スポーツに関するアンケート調査報告 （5）意見交換
資 料	資料1 第六期武蔵野市長期計画 資料2 武蔵野市スポーツ振興計画 資料3 武蔵野市スポーツ振興計画一部改定 資料4 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会設置要綱 資料5 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会委員名簿 資料6 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）の策定方針 資料7 策定委員会スケジュール案 資料8-1 武蔵野市のスポーツ・運動に関するアンケート調査報告書 資料8-2 アンケート調査報告書の要点 資料9 武蔵野市スポーツ振興計画等の実施状況とその評価 資料10 事務局名簿

## 1. 開会

事務局より、開会の挨拶と配付資料の確認を行った。

## 2. 委嘱状交付

教育長より、策定委員の委嘱を行った。

## 3. 教育長挨拶

教育長より、第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会の開会にあたり挨拶を行った。要点は以下の通り。

- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、スポーツ施設の利用やスポーツ関連施策などに制約がかかっている。一方で、スポーツは人々が抱く充足感や人と人とのつながりなどに寄与する重要な活動であると再認識した。
- ・昨年度、市民に対してスポーツ・運動に関するアンケート調査を実施した。市民のスポーツに対する関心や実施状況は他自治体と比べて前向きな結果ということがわかったが、細かい部分で課題も確認できている。いくつか例示したい。
- ・「する」スポーツでは、子どものスポーツ活動の二極化、小学校から中学校へ進学するにあたり、特に女子のスポーツ離れが見られること、40歳代男性や20歳代女性など特定の世代におけるスポーツ実施率の低いことなどが課題としてわかっている。
- ・様々なスポーツの基盤がある中で、民間のスポーツ施設やスポーツクラブとの連携可能性や、コロナ禍で展開すべき効果的なスポーツ関連施策なども模索したい。
- ・「みる」スポーツでは、スポーツと文化との関係に着目したい。武蔵野市の一部のスポーツ施策は公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団が担っている。今後、市の文化施策を担う公益財団法人武蔵野市文化事業団との統合を予定していることから、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団が展開する取組においては、スポーツと文化が融合されていく可能性もある。そこでどのような価値を創出できるのか検討していきたいと考えている。
- ・「ささえる」スポーツでは、従来から武蔵野市のスポーツ施策を支えてきていただいた武蔵野市体育協会や武蔵野市スポーツ推進委員協議会の今後の活動や展望を検討していきたい。
- ・障害者スポーツでは、ユニバーサルスポーツとしての捉え方、普及・啓発、在宅にいる障害者がスポーツにアクセスできているのか、また、スポーツに親しむための支援を検討していきたい。
- ・eスポーツは難しいと考えているが、テクノロジーとスポーツとの付き合い方を見極めていくことも課題だろう。在宅でテクノロジーを活用してスポーツに親しむという在り方があっても良いと考えている。
- ・今後、総合体育館と屋内・屋外プールなどの改修を予定している。今後の在り方を検討していきたい。
- ・今後もコロナ禍の中で制約がかかってくるかもしれないが、是非、武蔵野市のスポーツの展望に向けて、幅広く自由なご意見をいただきたいと考えている。

## 4. 委員自己紹介

策定委員から自己紹介をいただいた。

## 5. 事務局紹介

事務局より、事務局職員と計画策定支援事業者の紹介を行った。

## 6. 議事

### (1) 委員長、副委員長選出

策定委員の互選により、委員長に松尾委員が選出された。また、松尾委員長の指名により、石黒委員が副委員長に選出された。

### (2) 策定委員会の運営について

事務局より、資料4を用いて策定委員会の運営について説明を行った。策定委員会は、希望する委員以外の者の出席・傍聴を認めることとし、議事録は要約を基本として、委員長、副委員長、事務局以外は委員として表記し、事前に各委員へ内容の確認を済ませた上で公開することと決定した。

### (3) 策定方針と策定スケジュール

事務局より、資料6～7を用いて策定方針と策定スケジュールについて説明を行った。

### (4) 武蔵野市の運動・スポーツに関するアンケート調査報告

計画策定支援事業者より、資料8-2を用いてアンケート調査報告書の要点について説明を行った。

### (5) 意見交換

副委員長 今回実施した関係団体向け調査の内容は、成人等向け調査の内容とほとんど変わらないとうことで良いか。

事務局 その通りである。

副委員長 承知した。その他、気になった点としては以下の通り。

- ・スポーツを好きな児童・生徒の割合が全国と比べて低いこと。また、その理由として「得意ではないから」が最多となっており、全ての子どもたちにスポーツを楽しんでいると感じてもらうことが喫緊の課題である。
- ・成人等向け調査の結果として、週1日以上スポーツ実施率が他自治体と比べて高くなっている。一般的に実施率が低いとされている年代層が、あまり低くない理由、背景を突き詰めていくと良いのではないか。
- ・また、一般市民の総合体育館の利用率が14.8%と、10人に1人以上も利用していることが特徴的である。武蔵野市は総合体育館の大規模改修を控えており、様々なステークホルダーと今後の在り方を検討していく必要があるだろう。

委員長 今回の調査では、実施率が東京都やスポーツ庁の調査と比較して高くなっている。実施率が高いという結果の要因はさまざま考えられるが、これまでの施策の成果としても評価すべきだと思われる。また今回の調査で実施している競技種目の選択肢に「階段昇降」が含まれており、自分の意思で身体を動かすことも含め、スポーツを広い範囲で捉えている。このように、「スポーツとは、自発的に楽しむ運動」というように広くとらえることが重要だと思われる。ただ、その一方で、スポーツに親しんでいない人も一定程度いることに留意する必要がある。スポーツに親しんでいない人に対するアプローチを検討することも重要となってくるだろう。それでは各委員からコメントをいただきたい。

委員 スポーツを実施する場の充実が取っ掛かりとしては良いのではないか。身近な場所にスポーツに親しめる施設があることが重要と考える。また、地区別の視点では、武蔵境地区には施設が乏しいので、充実させていきたい。

- 委員 障害者スポーツやニュースポーツを「みる」機会を増やすことが重要と考えている。青空市に紹介ブースを出展したり、コミセンでポッチャを紹介したりと、できるだけスポーツ参加への敷居を低くして、一般市民をいかに上手く呼び込むのか、気軽にスポーツに親しめる機会を創出できるかが重要だろう。
- 委員 小学校では身体を動かす機会として体育の授業があるが、鉄棒や跳び箱に対して苦手意識を持つ子どもが多い。武蔵野市においては、親子で参加できる鉄棒や跳び箱の実践機会や、トップアスリートとの触れ合いによるスポーツの魅力を感じてもらえる機会などがあれば、子どもがスポーツを楽しむことにつながるのではないかと。前任校ではポッチャを推進していて、異学年交流につながった様子が見てとれた。ただし、ポッチャを推進するには道具や施設の面で課題があるため、環境面の充実に力を入れていけると良いと考える。
- 委員 アンケート調査結果において、スポーツを好きな児童・生徒が8割以上と分かり、とても多い印象を受けた。今の子どもたちは、スポーツ以外にも様々な楽しみ方を知っている。その中でもスポーツに対して楽しさを感じている子どもが多いことは前向きに捉えて良いのではないかと。学校運動部活動については、子どもからの求めるものの多様化が進展している。また、最近の子どもたちは多忙になっている。だからこそ、スポーツの楽しみ方をどのように体感させていくかを検討することが重要と考えている。
- 委員 児童・生徒が障害者スポーツへの関心が高いのは取組の成果と捉えている。武蔵野市の取組の中で障害者スポーツについては、力を入れて取り組んでいると思う。今後、障害者スポーツの普及から、障害当事者がスポーツに親しめる場を推進していくことが重要であると考えている。
- 委員 一般社団法人横河武蔵野スポーツクラブでは、社会人の競技スポーツと、育成としてスクールやアカデミーの活動のほか、地域住民参加のかけっこ教室やソサイチの開催、近隣保育園へのグラウンド開放を行っている。「近くにスポーツ施設があり、実施率は高い」というお話が出ていたが、横河グラウンドは常に空きがなく、一般の方への貸出ができない状態となっている。より多くの人にスポーツを実施する環境を提供するには、近隣の公共施設や学校との連携が重要になってくると考えている。また、毎年、タグラグビー訪問授業に伺っているが、楽しさを体感した子どもたちに継続的な機会や場を提供してあげられないことも課題と考えている。さらに、活動頻度が高まると近隣住民との付き合い方も重要になってくる。コロナ禍ではご意見も多いため、緊急事態宣言期間中は活動を休止したり、マスクの着用を徹底したりと対策を講じているが、大きい声を騒音と捉えて注意を受けることがあるなど、近隣住民との付き合い方を検討していきたい。
- 委員 アンケート調査結果にある通り、武蔵境の地区はスポーツ施設が乏しい。コミセンの体育室はあるが、本音では大きな体育館を希望する。今は、コミセンの体育室を利用して活発に教室を開催しているが、そもそも施設の存在を知らない人が多い。また、子どもが参加できるスポーツクラブや競技団体は多く存在しているが、お金をかけられる家庭とそうでない家庭があり、機会を均等にできる仕組みができないかと考えている。私は福祉分野に関心があるため、そのようなことも考えていきたい。
- 委員 アンケート調査の聞き方も影響すると聞いたことがあるが、武蔵野市のスポーツ実施率は高い。私たちの課題は、どのように継続してもらおうのかということと思う。一般的に、

身近にスポーツに親しめる環境がないと辞めやすい傾向にあることがわかっているので、継続を促す取組も検討していきたい。

委員

市内の地区別の人口と施設数のバランスに着目すると良いだろう。武蔵境はスポーツ施設がもともと他の地区よりも少ないため、武蔵境に住む市民の実施率が低くなっているのではないか。

また、海外と比べても日本のスポーツ実施率は高い印象で、海外では子どもが一人でスポーツクラブ等に通うことは危なくてできない。さらに、貧困格差も東南アジアの国々と比べると小さい。改めて恵まれた環境である日本の、そして武蔵野市に在住できて良かったと思うとともに、これからのスポーツの在り方を検討していきたい。

委員

20歳代の頃は武蔵野市でスポーツに関するイベントが開催されていることを知らなかったが、子どもができる身近なものになる。20歳代の人たちには、武蔵野市が開催するスポーツイベントに触れていただいて、武蔵野市に住む動機につながってほしい。それから、温水プールの更衣室からプールまでの距離が長いから利用しづらいという声を身近な人から聞いている。このような身近な人の声を代弁する形でも意見を出していきたい。

委員

プールの更衣室の問題は認識している。利用が増えると臭いやぬめりが生じてしまうというジレンマを抱えている。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、利用者を制限した。それから、先ほど教育長の挨拶であったように、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団と公益財団法人武蔵野市文化事業団の統合に向けてすり合わせを行っているところである。

委員

市としてのスポーツ振興を推進していく上で、公民連携と公民の境界線を意識することが重要となってくる。公民のラインをどこに引くか、時代の流れや武蔵野市の地域性を踏まえながら検討していきたい。武蔵野市は市と民間ともに、その中間ともいえる事業団があるので、その三者で連携をしていきたい。

また、公共施設の更新という課題がある。武蔵野市は今でも人口が増え続けており、今後持続していく自治体として施設の更新に取り組まなければならない。人口が増えていく中で、華美になりすぎず、市民のスポーツ振興に資する更新計画を作っていく必要がある。

副委員長

武蔵野市は、これまでの努力もあって、スポーツ実施率の水準の高さが強みになると感じている。一方で、障害者や子どもなど、ターゲットを明確にして重点的に取り組むことで、実施率を押し上げる施策を展開できるのではないかと期待している。そのためには、公民の連携・役割分担を実現していくことで、効果的・効率的な計画が策定できるのではないかと考えている。

最近速報が示された令和2年度体力・運動能力調査結果によると、サンプル数が不足するため統計的に有意ではないが、体力低下傾向が見られた。この要因としては、やはり新型コロナウイルス感染症の影響と考える。この結果を受けて、スポーツ実施率は上がっているものの、体力は低下しているという矛盾が生じていることに気が付く。このことから、スポーツの内容についても注視する必要があるのではないかと考える。

委員長

私たちが取り組むべき課題は、3つの軸の交点にあると考えている。一つ目は歴史軸。スポーツの歴史でみると、基本的にスポーツは50年で広がって50年で定着していることがわかる。2050年までに、若い男性の競技志向のスポーツだけではなく、障害者、子ども、高齢者、女性などにどれだけ定着できるかということが課題となる。二つ目は現

代軸。経済格差、共生社会など、現代的な課題をどのように解決していくのかということが重要。三つ目は未来軸。未来にどのような社会をつくりたいのか。将来の社会におけるスポーツの在り方をイメージした上で今を検討することが重要である。そのような捉え方をすると、SDGs で掲げられる目標の達成と、デジタルとリアルの融合を目指していくことが特に重要ではないかと考えている。今後、具体的な計画づくりお力添えいただきたい。

#### その他

事務局より、次回の会議日程について説明を行った。

- ・次回は5月26日（水）18:00 から武蔵野市役所 412 会議室で開催を予定している。

以上